

特別支援教育について

大里北小学校 特別支援教育校内委員会

特別支援教育とは

- 一人一人の教育的ニーズに合わせた教育。
- 医療、福祉などの関係機関と連携し、適切な支援を行う。



特別支援教育の対象となる児童とは？ ※[]の数字は文部科学省の調査より

- 特別支援学級に在籍する児童

*入級を希望する場合は、毎年6月までに学級担任に届け出てください。

専門的な検査結果をもとに話し合い、特別支援学級で支援を受けることを検討します。

- 通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒〔全体の約 8.8%〕

(LD, ADHD, 自閉スペクトラム症などの発達障害をもつ児童やその傾向のある児童)

※資料参照

*全職員で話し合い、適切な支援を行っています。

大里北小学校では

- 特別支援教育コーディネーターを窓口として、学校長を代表とする「校内委員会」が一人一人の児童に適切な支援を検討します。
- 特別支援教育に関して全職員が研修を行い、児童への支援を行います。
- 保護者との教育相談を通して、家庭と学校の連携をサポートします。
- 医療や福祉、教育センターなどの専門機関を紹介します。



気になることがあれば、担任または特別支援教育コーディネーターに相談してください

発達障害について（通常学級に在籍する子どもたち）

※ このチェックリストは診断のためのチェックではありません。子どもの傾向や特性を知り適切な支援を考えるためのものです。家庭や学校での子どもの様子から、あてはまるものをチェックしてください。

○あてはまる △わからない ×あてはまらない

観 点	内 容	○△×
聞く	聞き間違いがよくある	
	個別に言われると聞き取れるが、集団では難しいことが多い	
	指示したことの理解が難しいことがある	
話す	言葉につまることがよくある	
	思いつくままに話し、わかりやすく話すことが苦手	
読む	文中の語句を抜かしたり、くり返し読んでしまうことがある	
	音読がとても遅い	
書く	独特で読みにくい字を書く	
	句読点が抜けたり、正しく句読点を打つことができない	
	作文が苦手で、短い作文や決まったパターンしか書けない	
計算する	学習した数の意味や表し方についての理解が難しい	
	簡単な計算を暗算で解けない	
	計算するのにとても時間がかかる	
推論する	学習した、長さや重さなど量の理解や量の比較をすることが難しい	
	学習した算数の図形を描くことが苦手	
	勘違いがあったり、周りを驚かせるような考えをすることがある	
不注意	授業中や朝会などで気が散りやすく、別のことをすることがある	
	うっかりミスや忘れ物が多い	
	整理・整頓が苦手である	
多動性	授業中に勝手に席を離れることがある	
	授業や朝会でキョロキョロしたり、そわそわ落ち着かないことがある	
衝動性	順番を待たずに、勝手に列に割り込むことがある	
	自分の考えを押し通すことがある	
	攻撃的な言葉や行動をとることがある（トラブルが多い）	
社会性	友達と仲良くしたい気持ちはあるが、友達関係がうまく築けない	
	友達のそばにいるが、一人で遊んでいることがよくある	
	周りの人が困ってしまうようなことも気にせずと言ってしまう	
	決まりにこだわり過ぎて、友達の行為を大げさに注意したりする	
コミュニケーション	会話が一方的になったり、やりとりが続かなかったりする	
	冗談や皮肉がわからず、言われたままの言葉を受けとってしまう	
	会話の仕方が形式的で単調な声の高さで話したり、間合いがとれない	
興味 こだわり	きまった興味に熱中することがある（昆虫、読書、ゲーム、車など）	
	予定や時間割などの急な変更や変化をいやがったり、怒ったりする	
	とても得意なことがある反面、極端に苦手なことがある	

※チェックの○が少なくても、家庭や学校で子ども自身が困っている様子があれば担任に相談してください。